位にも思へる程なので、恐く、之等遺物の實狀とこの理論との對稱を見て、疑問が起る事にならう。

然らば說明に入つて、原始佛教美術の迷宮を通り拔ける道を得る手引から始めよう。此の方面の考古學では、已に前述の所で知れる樣に、以前には純裝飾のものであると見られて居た浮彫に、佛教的意義を發見して常に進んで來たので、蓮の如き、當初の探究者はその特殊の意味を見遁してゐたのである。例へば、此の研究で進むべき道を辿る事となつたのは、ファガソンの所謂『樹木崇拜』で、成道の奇蹟を示してゐる事を判じ得た時にあるので、かくて、輪で第三奇蹟を、塔で第四奇蹟を、終りに蓮で第一奇蹟を現はしてゐるのを知るに至つたのである。……此の古代派の發達は、時代を降るに從つて、初めは頗る漠然であつた題材の宗教的性質が明かとなり、之に關係のない分子は凡て漸次除かれて、佛教特有の主題に適合するものが殖え、益其性質が肯定せられる樣になつたといへる。

印度に於て、今日に跡を遺してゐる最も古い美術は、佛教美術であるが、之